

平成25年度の学校評価

(ア) 建学の精神

不言実行 あてになる人間

(イ) 重点目標

- a 私学は生徒募集が生命線。私学協会の平均充足率を下回らないよう、渉外活動に努める。
- b 普通科では進学実績を図るためのプロジェクトによる、英語の「学び直しトレーニング」の導入、英検の資格習得、一貫コースでの中部大学併設校推薦希望者の他大学受験等々、具体的推進案が実行に移された。本年度はさらにこれを推進する。
- c 機械電気システム科はジュニアマイスター資格取得者が順調に増加してきた、さらに資格取得者増を目指すための取り組みを展開する。
- d 「いじめ」は、物事を深く考えず、また「思いやりに欠ける」行動によって引き起こされる。いじめを許さない、起こさせない、「安心・安全」な学校づくりを目指す。
- e 生徒の満足度の向上や保護者の評価への対応も推進する。特に授業に対する生徒の満足度を高めていかねばならない。教える側としては分かる授業の工夫、評価・評定の公平化、受ける側として授業規律や授業を受ける姿勢の改善を図る。
- f 部活動、学校行事をマンネリ化、硬直化をさせないため、毎年見直しを行い、生徒にとって学校生活を印象付け感動を与えられる企画を考える。

分掌	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
渉外 部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 募集定員を確保する努力。 (2) 中部大学との「高大一貫教育」の発信、広報活動の一層の強化。 (3) 建学の精神「不言実行、あてになる人間」の具現化。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 進学アドバンスコースの設置。 (2) 特待生、スポーツ奨学生を含め成績優秀者の募集に努め、定員を確保をする。 (3) 推薦入試・一般入試の変更 (4) 学校見学開示に保護者に対して中部大学の説明を実施。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 進学アドバンスコースを新たに設置するに当たり学校見学会、中学校説明会などとおして高大連携の有意性を説明した。 (2) 生徒募集の在り方を全教職員に生徒募集意識づけが必要である。 (3) 私立学校展への教員研修の一貫として若手教員の参加をさせる。 (4) ユネスコスクールとしての活動や文化発表会等を通して、近隣市民町民から信頼される学校づくりに努め、広報活動に力を入れていく。
総務 部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 災害発生時の対応の強化。 (2) PTA 校内美化に協力。 (3) 総務部の役割の共有化。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 大規模災害発生時のマニュアルの整備をする。 (2) 一年間とおして花の咲く学校となるようにする。 (3) 仕事の固定化を避け、ローテーション化する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 緊急避難速報型の訓練を実際に行った。訓練の結果を受け、大規模災害発生時のマニュアルの整備に着手し、検討継続中である。 (2) 樹木の種類の選定と購入計画の検討する。 (3) ローテーションをかけ各行事が企画できるようにする。
教務 部	<ol style="list-style-type: none"> (1) よりよい授業の確立。 (2) 新たな授業方法の検討。 (3) 教務システムの使用状況の確認。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 4月の授業開始日より学習規律週間を実施し、6月と10月に公開授業週間を設定する。 (2) 生徒の学習への関心や意欲を向上させる目的で情報機器を活用した授業の可能性を探る。 (3) 様々なデータの保管・管理、もしくはデータの入力の見直し、検討。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学習規律週間では、不定期に授業巡回し、問題があるクラスは担任や教科担任などに指導を依頼した。公開授業週間は学年会を中心に授業巡回を行い、主に授業態度が不良な生徒を指導した。 (2) 電子黒板を使用した模擬授業を行った。授業担当者や生徒の評価はよく、学習効果を上げるために有効という評価を得たので、来年度移動式電子黒板を導入する。 (3) 成績をはじめとする個人情報を入力や成績処理の在り方などに問題があり、来年度改善に向け検討する。
生徒指導部	<p>生徒の健全な成長を促し、自己管理能力を育てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 身だしなみ指導の徹底と規律の向上に努める。 (2) 登下校時のマナーの向上と交通安全に努める。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 問題行動の抑止と発生後の初期対応に努める。 (2) 職員による校外指導並びに啓発活動により、交通安全教育、交通マナー向上に努める。 (3) いじめや迷惑行為、授業妨害など問題行動の撲滅のため迅速な指導姿勢を持って臨む。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学習指導並びに教育目標を達成するために、問題の早期発見に努め、全職員の指導方針・体制を確立し指導にあたる。 (2) PTA による街頭指導をサポートした。 (3) 名古屋ダルクの方に薬物乱用防止の講話、道路交通法改正にともない交通安全指導を実施した。 (4) いじめによる問題行動の撲滅のために、生徒の人権を守り、より良い学習環境を確保する努力した結果、いじめは0件になり迷惑行為による指導件数も激減した。
特活 部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 全員参加型の生徒会行事を推進し満足度を高める。 (2) 部活動を物心両面で支援をする (3) 教育相談を充実推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 全員参加型の文化祭を継承、展示の質を高める。 (2) 新規部活動、顧問部員数に応じた適正な予算編成をする。 (3) 本校に無い種目で高体連等の大会に参加生徒を支援する。 (4) カウンセラーと連絡を密にする。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 文化祭を早め7月中旬に準備期間を設ける。 (2) 部活動の推進費配分を見直し実施する。 (3) 健康相談・教育相談の連絡を密にする。 (4) スクールカウンセリングの件数は昨年並みであった。 (5) 保健室利用生徒は減少した。

分掌	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
研修部	(1) 初任者研修実施結果 (2) 現職教育実施結果 (3) 各種調査結果比較 (4) ESD 活動と委員会活動	(1) 学校生活意識調査・学校評価(保護者対象)の実施と分析。 (2) 初任者研修会、初任者研究授業の実施。 (3) 講演会を実施する。	(1) 卒業学年に対する意識調査、保護者対象に調査を実施し、過去データ3年間の比較を報告した。 (2) 教科会の時間に研究授業を実施する。 (3) 中部大学武田邦彦教授に講演を依頼した。
進路指導部	自分の興味や適正を早期に自覚させ、主体的に自らの将来の目標を設定し進路を確保する。	(1) 進路未定者を出さない。 (2) 中部大学への進学を確保する。 (3) 中部大学100名以上、就職一次合格80%、国公立大学10名、進路未定者0名を目標とする。	(1) 就職一次合格者は70%と昨年度に比べ上昇した。また生徒の能力に応じた適切な企業斡旋が一次合格率を上げた。 (2) 中部大学併設校推薦、AO入試等で104名合格した。
普通科	(1) 中部大学進学者を増やすため、学習に対する達成感を持たせ、学習意欲の向上を図る。 (2) 一貫コースの3カ年学習計画に基づく学習・進路指導の充実を図る。	(1) 普通科全体の目標を英検に絞り、合格に導き学習意欲の向上につなげる。 (2) 高大一貫の価値を高めていくため、進路実績を意識した指導を展開し、学級全体が学習・規律に前向きな学習環境をつくる。	(1) 中部大学併設校推薦の併願受験生に模擬試験を積極的に受験させる。 (2) 英検受験を義務化のため、学年として英語の基礎学力向上に取り組む必要がある。 (3) 学校全体の学力実態を把握し、基礎学力向上へつなげる。(マナトレの導入) (4) 家庭学習の充実と学力の定着化を図る。学力が身につく勉強方法を提示し、さらに併設校基準に達しない生徒への進路指導の充実が必要である。
機械電気システム科	(1) ジュニアマイスター顕彰取得者増を目指す取り組みの方法の確立。 (2) 3級技能士「電気機器組み立て-シーケンス制御作業」受験への準備。	(1) 機械電気システム科3年間で取り組む検定計画表はほぼ固まった。 (2) 3級技能士「電気機器組み立て-シーケンス制御作業」受験を目指す。	(1) ジュニアマイスター顕彰取得者はゴールド3名、シルバー14名であった。 (2) 技能士受験では、機械加工(普通旋盤加工)3級を4名合格した。電気機械組立て(シーケンス制御作業)3級の受験準備のため教員が研修に参加、シーケンス実習の延長上であり、実習設備も数台現有した。 (3) 技能士受験をするための受験科目の精選を図る必要がある。
1年生	(1) 高校生として基本的な生活習慣を身につけさせる。 (2) 資格取得や進路目標など短期的・長期的な目標を持たせる (3) 各コースの特徴を生かし、取り組む。	(1) オリエンテーション合宿・4月のHRを有機的に活用する。 (2) 学習習慣を身につけさせる。 (3) 資格取得(英検やS科の各種検定)・補習・部活動・自習室での学習等様々な機会を捉えて継続的に指導する。	(1) オリエンテーション合宿で高校生活についてHRやガイダンスを行い成果が大きかった。 (2) 授業態度は概ね落ち着いていたが課題提出に遅れが見られ、期限厳守の意識を持たせたい。 (3) 普通科はマナトレ、英単語小テストを実施した。機械電気システム科は積極的に資格取得に取り組んだ。
2年生	(1) 学内の連携を密にし、問題行動の早期発見に努める。 (2) 学習環境と進路に合わせた学習指導の充実を図る。 (3) 各コースの特長を活かした取り組み。	(1) 自ら取り組む「自己指導能力」の向上に努める。 (2) 進路指導を充実させ、自己の進路に関心を持たせる。 (3) 資格の取得や補習並びに部活動参加の勧め、自習室の活用なし目的意識を明確化と学習に積極的に取り組む姿勢を養う。	(1) 生活面では身だしなみ、集会時の整列など、「言われる前に行動する」生徒が増えてきた。時間を守る指導が大切である。 (2) 家庭学習も含めて学習意欲に乏しい生徒の家庭との連携を強くする必要がある。 (3) 学習への取り組み姿勢を再考し、希望の進路実現に向けて学習環境の改善を促した。今後も継続的に粘り強く指導する。
3年生	(1) 進路決定の学年であり、落ち着いた学習姿勢を徹底する。 (2) 全員の希望進路の実現を目指す。	(1) 身だしなみに対して自ら気をつける意識を高める。 (2) 建設的な考えを持ち、自己と素直に向き合う。 (3) 目的に応じた進路選択ができるよう指導する。	(1) バス指導、身だしなみ指導など徹底不足であった。対処療法的指導でなく生徒に自覚と自主的に気をつける指導が必要であった。 (2) 外部模試などを利用し、細かい進路情報を提供する必要があった。 (3) 進路決定後における生活及び学習態度や姿勢は良好であった。
総合評価	<p>本校の教育は建学の精神である「不言実行 あてになる人間」のもと理念をもって様々なかたちで教育に取り組んでいる。次年度から進学アドバンスコースの新設にともない、中部大学への進学率の向上と学力の向上の両面が当面の課題である。平成25年度を振り返ることにより、さらに学校を進化させ、学校力・教師力を高めることで、さらに生徒の人間力を高めることになると期待している。</p> <p>学習指導面では、より良い授業の確立のために「わかる授業」を目指して習熟度別授業、選択科目の充実ときめ細かい指導、授業改善に取り組んだ。また基礎学力の向上を図るためにマナトレ、小テストの実施など積極的に行ってきた。少しであるが生徒の授業に取り組む姿勢に変化が見られるようになった。その結果普通科では英検合格者の増加、機械電気システム科ではジュニアマイスター顕彰取得により結果が表れた。次年度は電子黒板を活用した授業改善を研究、年間授業時数の確保など学力向上のために様々な方策や取り組みが期待できる。</p> <p>生徒指導では、早朝より登校時の校門前指導とおとして学校全体が落ち着いて穏やかな校風をつくるために日々努力している。生徒自身が基本的な生活習慣の確立できる指導、規範意識を高め、ルール、マナー、モラルを身につけさせるために自己管理・自己指導能力の育成に向けた指導をさらに継続していく必要がある。</p> <p>進路指導は、特進コース以外に一貫、進学コースの生徒も学外模試を受験し、「今の自分の実力」を知ることで進路目標達成に対する生徒及び保護者の意識を高めていく。そのためには放課後及び長期休業中の補習など学習支援の充実と連携した取り組みを充実させ、生徒の学力を高めることに努める必要がある。</p> <p>また就職指導は、景気的好転傾向により企業が採用に積極的であったこと、また生徒の能力に応じた適切な企業斡旋が一次合格率の上昇につながった。今後は集団討議法などを取り入れた授業で学ぶ楽しさを実感しながら、基礎学力を身につけ採用試験に対応できるようにしたい。</p> <p>特別教育活動では、ESD(持続可能な開発のための教育)活動で国際理解教育と生物多様性・環境教育に取り組んできた。本校生徒にさらに広く認識させ息の長い活動を展開していきたい。</p> <p>部活動は、男子バスケットボール部は新人大会(東海大会2年連続優勝)、高校総体、ウインターカップ(全国ベスト16)と創部以来初めて県内3大会を制覇という快挙を成し遂げた。野球部は夏の大会である愛知県高等学校野球選手権大会でベスト4と健闘をし学校や地域を沸かせた。本年度創部したばかりの女子ソフトボール部は、1年生ながら愛知県高等学校女子ソフトボール選手権大会において第3位と健闘した。また男子ソフトボール部は東海高等学校総合体育大会男子ソフトボール大会で優勝。少林寺拳法部が愛知県高等学校新人体育大会で男女が総合優勝を果たした。本年度も多くの運動部が輝かしい実績を上げた。一方、文化部11部が出展した、第5回「文化合同企画展」が日進市内で開催された。地域に根ざした活動を推進しようとする文化部行事も年々充実した発表会に発展してきた。本校の建学の精神を学校全体で具現化しようとする意気込みを感じる年であった。</p>		